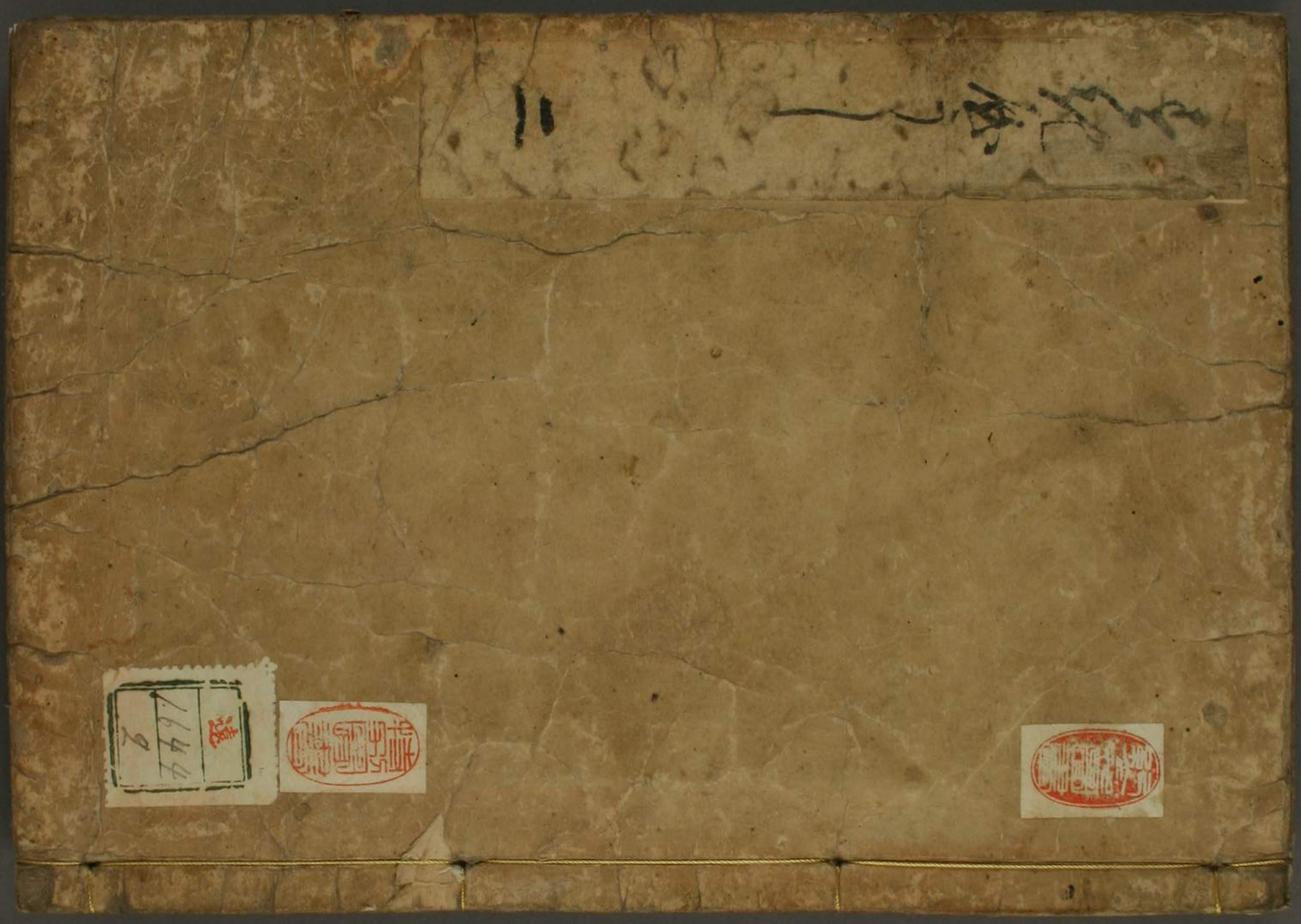


へ13号
1644
2

宮内省図書寮

扶揚校第二

不動のかゝしらぎ

一体和尚と行基菩薩とは小門あり　とさハ
けるとうてんしてをすなをぐかりるまたいさゆく
てうらつまうかをいでのひ東山にて幕おゆ一
南ゐろ者のふをふ頬先絶ゑりしころ眼三角
ゐしては猶強のとくにひそりをを七尺あまりなる
大山外まりて魔物といひて臭くくくく喰さ
てゝらをろ一体も行基も一瞬の技をおとろうさ
きて二三さんべゝらとびかゝり怪法をしておされ

やれありて和尚立腹におよびて時料ふなりし沙汰
それハ山伏ぢやもいれぞ又大峯山と申ハ我が朝ニ六十六
泰平国家安全のための護摩の道場よ八女人禁制の所
山とき料がなしとぞ吹られてまるわまりかなし
くおほしけるハお中ぼれ口を頭之巻の葉の段
をもちらく我が付として未詞一緒なげ初
まふ山伏是を同かまられ幕内入かけ参りを
御不今一緒と云て又貝をぞ吹られける一体あまり
不和せりしたりめしていやすらぬときえんとて又
中ぼへ入られける山州ちらとそ人斎とつひ斗出

とりひ寺の仏会ぎろ振舞くれいで和尚と人と
らひてありけるハ同むと睨おしまた斎そて
貝を吹ざらんものんでそいうのよけり和尚の
修ひしハやさ方が我をとらせねバとて見えぬゆ
あちど取ふさく一目不眼おみえ衣なり喘て飯
方のふ言をれてんよりわ為色とまけきぶとて和
ちれ目のゆゆくしけれなろさ風くお
見ふさおろかすまでそ打しされ
竹寺も同しく
世中よろしくてしらずなりけるそば

まえのごとくにかけうつす

山伏いろ〳〵と祈願していのれども

むしらさるゝぞ我身よ悟りし時まで

ぐうもてくらあぎて魔をとさんとぞとめる

ちきる一体生られいて〳〵まぢりてたんやさん

ぶく〳〵いたぐらくしてたいさんせん試の為

うそと虎狼屋敷ちづりて張どんをよりそ

尾ゝくゝら蔵〳〵ば養てくいさんとぞ仕

きる山外生ひて屋とくれとの教をぞさ

仏法と嬉しりのとゝそらぬたるぞゝいく

ゝて怪悩をとる魔入りとて

脱よきる一体ゝゝと祈願ひいよまてさる

まつのみすなりき方がゝゝぢりハ別のものハ

えちぢゝもや不動明王なり弟子ゝとにを西

ゝあて矣ひあり山邪見よ我慢と起ゝ

家内分なきハゝそさハいひゝなりそみ像を

ゝハいて〳〵ちぢりてんをゝさしりゝゝ

えゝゝハ汝我井ふよ嬉ゝといひりきゝ一

体ゝなをひまでしるゝ井よるゝんきづく

ゝりをゝあのもバ山伏山信よ指あま

てをとりあてあつかりつ猟屋一むれがえを
申ばさしあ所をえゆくゑ尖げりく井きよのんと
ゐるらひきる山伏きりんくるみさよのあ屋とゆゑせ
戸申しく黄むすひ未ぬ丟丟陀羅尼をとり
逸しくくたてあ所きてるくゆきどとえくく
ゑるしハゑりそり一体作けるハ日ゑ吐屋ハ見ゑ
ゑゆくてくゑ猟ゑるしあれりみ見背ゑしず
ハ鉄線へハ曲れまして屋を抱て笑ひあふ山
伏面目を失ひさしバきてるたゑくくハ一体
のいくくどくふもりされくくバなくあまてしつ

のとゆりや一廷くとえ猟くどゑりとて我
力とんをざうしいいあのだとくりて
ゑんをとべしくそくたきなる和たよ舎とんをのへハ
くるを屋ようたよや尾を振て来り一体のはひざを
おうびとうけてでおやきくりきうこを吐和ゑ
二三尺ハりの縄ざれと元出てけたの口見ゑ
ひさゆきよまくひをんくく俵されハ山ずいうて
いあやうそれがりゑでりけるうやつるけきはり
廣云とくるし縄ゑりとしゑくを見ゑんくくハ
振糸なりくて月口とくあ嘆ひのをう一体

さうめいやとよ笑ひ割れる山伏の
ちりぬ名をちりかくしぐりかけて日本流さう心ぼくち
あてしむつく山方がきかうぐちハ弘法入唐
しぼは五日ぶよ偽へとうれ根本の唐志づり
ぶ玉の本業しぶづハいまくまあくんをうし
しを人会よ無つを方と色とをぶりてみして
縄とときあれあくうくけうくばまくろよ
なりて売掛うる山伏がむうぶをきをうこ
嘘ろうの初よ八角のひの本持うよ拂ひのくれ
とよ祝ぶくぶいつき味ろかくくかく

てあくくうよ西とけてうけくぶがたぶうくまか
くぶ出てつくくうろうおもひやりけるこ一体それ
ときき
あくくぶ八ぶ八ぶのつかくくうを
ちまめ偽が移力のほど
と奥じまくじ作ぶくく
だうくきあくとうくなるよぞがうハ
きふうけつそれおしづなら
うくまふはどさん日書て家海ようくれろ

去年三月きりよ濱づきつまくなりしまゝ小一体
と行方知れず宅より戸へ入て事あらくろいひし もそか
しまゝうこ行方の知れざりしが 女の親方へ行て勝手の方より
よく戸やうねてはあけられ 知れざさ面白
ほすふ所度へハハ行ぞいあけて出見ん へいさ
らうんと存ぜうう女のそゆへよりあとと延引仕
てのあまこハ年ゝ ちらの御奥方お願ひ致し妹
まそくワこをしてがまくつ年ゝ ちけ縁ゝ

時うつるまゝバくて主人より御暇をとらで下り給ふとて又
うちわすれたることなりけりとや。そもそも一体当世ここ
ろやくろしろめすいさゝかへてぞ仰せかし其時女
房共へ何かくと様子申出御対面して酒やさうし
なるてしくも紙いひちらしえもうこさくらえし部たち芳
芙蓉の眸さんくちの唇あざやかに白粉をよそほさ
ぎ羅綾の衣あとふしてきいでんの中にあるうし
小野の小町かなりけるて関寺通ひよかろうとさせ
しかさ由くてもかほとまてはいつとけれどしそれは
しとこそたもひやうつ行まゝそうるきらてうふは

栄あくてしむのちしよりつねに思ひわたりし都を出し
別れ楽みこうつゝ主君に暇とらずまるしよしむ
の要は不作とてもをかて紙やうのむしよのうち
なる身の野辺の焼場へよめ入ものうきわがあはれ忘
ざう婦はいさきちるを目に六十余州の中よ好れ
ひてうちつきゐるも其時龍神ひとへ御供をまく
そなへて祈りかなさし天神地神も不便とおぼしめひ
儀の垣を和らげさせけんかりけれあかりけれとひと
つも叶ひし結ひけるこれ何こゝろよき御一生
昼さきへもあおあづる夢ひとおもひて寝入ける八郎女の

珠はよはらとりて流紋生付ぶつかるく双眼こりひ
鼻筋しつひ耳せく頬先いの面ちまてしちとよ
又しあろ表ろ表ろ松焼切門 厳焼ちりとしけしそ
ほひよはしやはくくん見作女の猫神そやおお
とけまくハ女くよ流のうめ河そし野ひて鯉の横
なろいよくら中美ろ巾ひざとしを摺神のしく
なる間ろくちなをめろ見ちくくくくくくくくくく
松ろ見ふ押あてとつきぬくくくくくくくくくく
野ちやれくしやわ高横よハ河そうろうおそう
やあれがいなるおくさ面ていまいとちくんぶそうれ

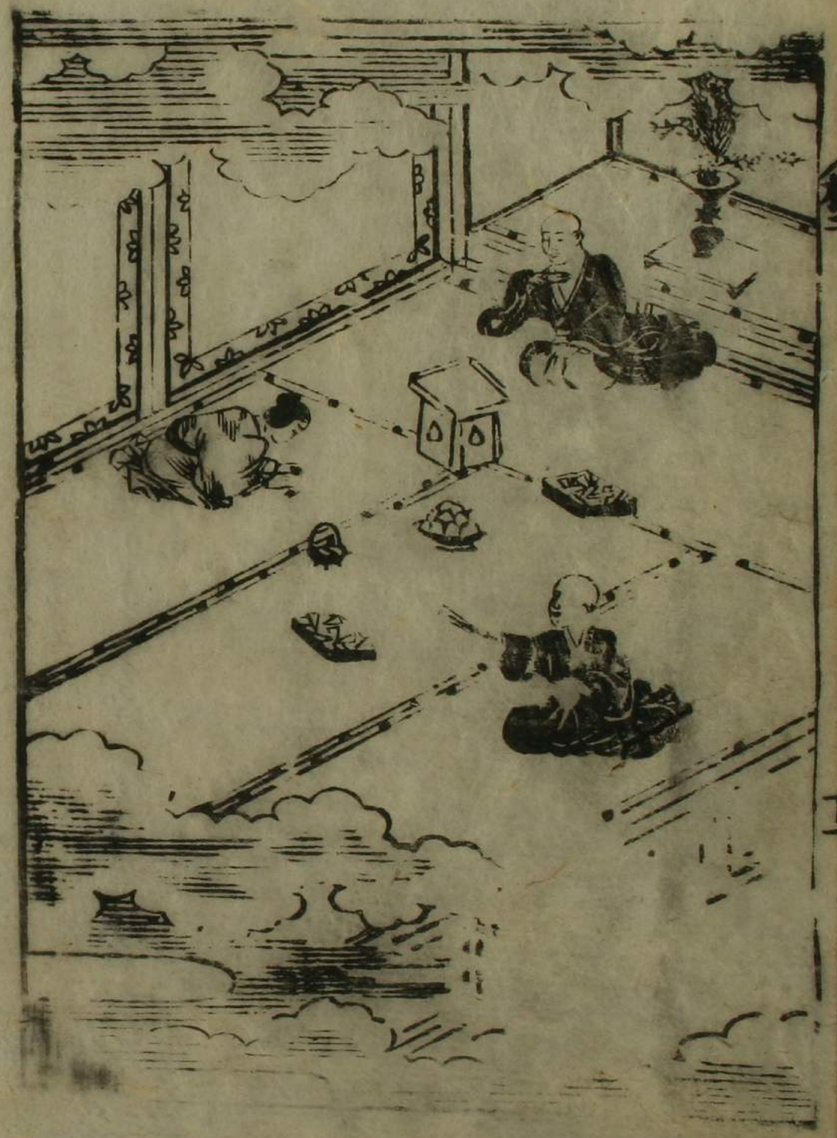
ちろなる尾間つくひよ かろくなる美とき也
し一体ときやりめろそ ひつさハあさろ千美の
ときめろよおろ高くしとくくろとしたろふ
くくど一体真ときてあされおておりて
きろろ石ハ河しくりそしありされば作ろを作ろ
されハやしさ方よ石し射ハろくとりてくくしサ
まろのくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくい面神くくろくくくくくくくくくくくくく
知くつがをくくなろべくくくくくくくくくくく
して作きろハさくやくくくくくくくくくくくく

てしく此者節に縫へし折節只長僧が語へしも聞
此人こし気どもうされまくのまひきれバさてハ我よ
こおりしももうくハ作られうるまれと思ひきうくこ
いう修よてひとり身れるまかは庵へハむもうく
ゆくゑのが日まて肌なきし夫もなくされと枕
とかりしまや三十余りまれ瀬と細て影は浪の
とのきのこつきみく漂乃積り来し今の今こ
そ縁なみめいよくんもて結ふなくそこしなる
てうしとひつるこむを六七盃かくういかりてつき
しにたてぞまいてせける行無皇とこて大汗かき

形ところえれ眼とみるとあしくてことどろてい
やしハそれ女ハ此陳之浪に撲まれとんうくえんいぶち
とこしまれども抑しても淡仏のさ迷とさいそれの見
おそすおる心流るとしてバ女人ときうひ女ハまよ
まし物をとされバ此百生しけるまきさ雲よまうへ空
おやうく汚れさる身をとうるしれ出身れおくも悩りぞ
く云絵色ののかうまひ曲事ありもぞいうりよ
あるなる女いふ揺その見さかうそもとをせさきれ我穿人
とおりしるかハ雑れぞやたすの主人の嫁ぬと
只、服みてもうこうしくうく霊迹上り年久

しきつゝハが為されバ仏会縁の色こゝつを
結ぶ人さ和たゝ小紙そられ来ふて進わされ日ハ
さめるゝ小神とぶよ明く卵よしざとれ日りり
日小鬼やれ多よ人さを数つさて今ゝくや
くしくび紙帽子れ中れまてひとりのいもうとを
はゝ紙帽子れ中れまてひとりのいもうとを
ちゞりとり自りあの三途川の縁とかふあこの
をとゝとく さゆくゝ中やまゝぐさの方れ
こゝをまゝよ出ぐさよすゝりぐゝちぐさゝる
よのうわゝさよくゝうぐゝちいひまゝ縁の
とゝとゝくまゝとひとゝ方とゝをこゝぐゝ

しゝまゝいゝゝくゝ仏しゝゝゝうゝハゝゝ
ゝさゝれバ真さゝゝゝゝちなゝちは和
四仏ゝれゝハ山女男のゝゝひゝゝいゝさ
ゝ安冊の者ゝり姫ゝ今人働のゝれハこれ
なゝゝゝよハゝゝそゝ中のゝゝゝゝゝゝ
ゝゝみゝるゝべ



えよ　しらうて　ものとうり　屋を　立さる　今
日のよと　ぞ　ぜん　人間の　式　しる　礼義の　二つ　か
ゆ　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん
新　さ　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん
ふ　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん
ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん
ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん
の　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん
い　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん
か　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん　ぞ　ぜん

うらかゝ霊んと尾上に籠てぞ老ひに寄る
傍くも身も吾山に隠れ一体も子香見けり
て紫蛇へ伸に縁におりふしまちこてしらくぞあ
そはしきは

大とけの有げくも志どろもどろもう
わしましくらぶけしらひてぞ行
くて行女の嫁娘をそらし憂世のくるしきと
様ゝ書ぬまくよおもいやま八誠多かりへよせ給
まを余所のくハまてまずやよけよおもまえん付
しきらしも名孫の稽古をまぐらくらべて今を

ちかつのうき身とつりきていつといはれとも
わるもの目をしふとまるもとまさまいぬ方の行
末れはぎりうきるく神よ誠や仲の和んくきつつ
経其様らの夜床の内よ古の班女が閨の淫泣さ
とおもひくらべてみとがされ枝よ都をそふ塩風を
男松よやるせぬくんやしめ鳥の帰うるもひとし
はおもひよ松吹こむろれ山の松蔭ぞしいろよハ
それでこまく袖と情と立る女行歌れ行の一字や
杖ちしらをそのつとうしら見月ハわりかふうひか
き捨小女いつらまるくれ彼よきん女子もん男

腹のえんあるくうちうち儀のもちどもたち
ちうちうんもんとやとおもよよ付てあげうさるく
一首ハうふそ迷惑を
なさけなさものやだごくでせめぬうん
まそ墨黒いろよそまれで
ゐしつひ出してもそちわ重さすろ都メ志それバ眠く
眼がつふ指こハ何のようなきなへばまりーさ美い
しんもふうとおこうよてそれバいやうろのハて
ふ三途川ふり生れぐられあうこの舟ハ目むつく
ばとをるこさ小神とそぐちわふれようゆろ三て

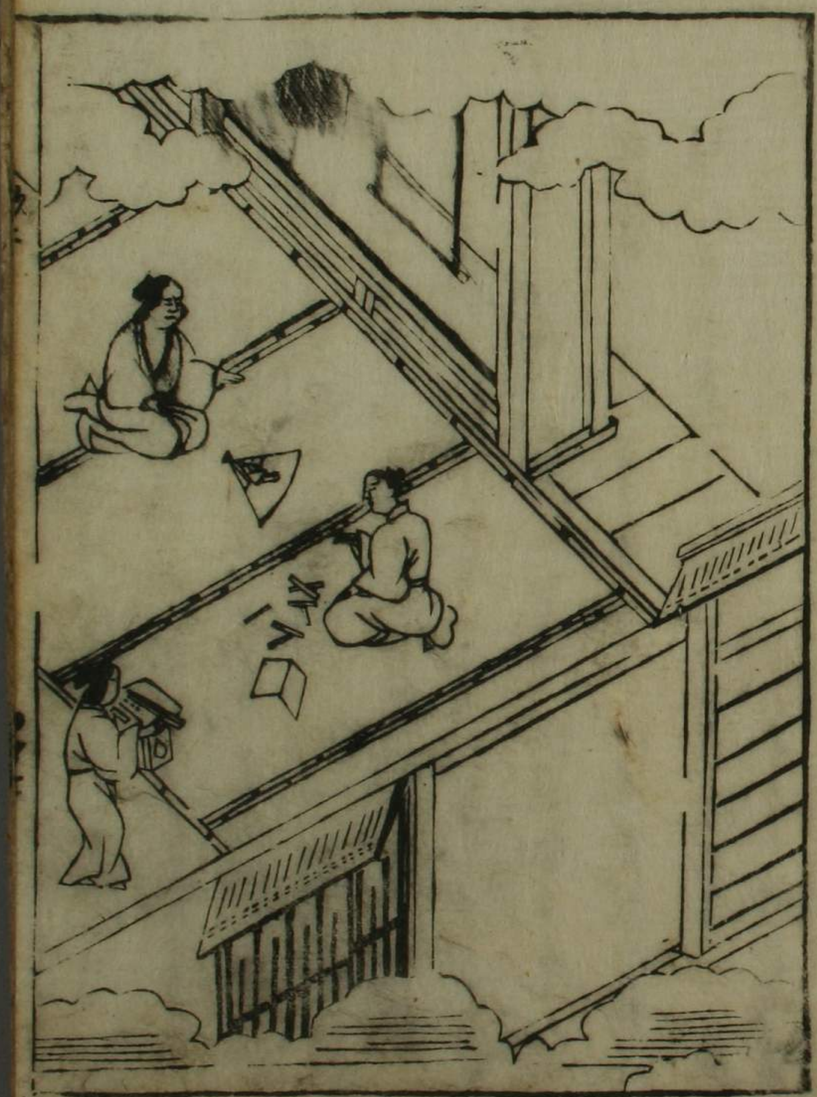
美さめ ちうちうへバ仏ものの服とうてあと墨くろ
およとありけうぐよとそつ重ねくおまひてたこ
し結重バさよハあうど二重ものよ抱えーつうた
ちう結ふう清ものーさ仏ねやうつ女生て
小神よハおもひそめこむうくぞなき
むまもしうきれうぐうおんで
にうこのかなかうとうて
さまでぐそうれ裸りなれろ殺肌で
おろもぐうれうよまれがつうれ
女先よ赤面してそへ

夏はさめぬ様とおもひてちぐ小袖
三途川にぞ流をそゝぐらん
くひとて秋萩川ぶりつくしきずとなく
し撲云ぬくそそれをされバ好みつゐ月やや
にとこそききおよびしるし尺出して我翁とあくるに顔頬
元かくきあくらて体かかなるすゝ丈夫やうし
えんこえいとをかしくて
縁付といふはまゝらん見し物をも
ふかがわるへもあしくといふとおもへて
まくらなげき我身なげく典とさまし此

なぞ中くよゐれるむかしへかへらさなやいさ清かる
ちの説世尊釈尊りて衆人童殺の舎利塔をあ
流らなんまれとやがくをゆひ尽まとうけ
おしろいあまぐろふよりまひろげつさうをれご
とくなかしと百過そうしも望てみえそでひろ弟
紫母だそこさぐ状中よつてちがさりも玩かく流よか
さま思ひ白むて美むてあきさむてひろきくよと
衣よくへとも王づるのころ紺屋染をそでうけよさまざ
し侍あまそてそきうろへまけり仏あまたのみれぞ
ただうけて女人殺歎求男の徳ちろひ此分に納受を

きをくとかく彼樂とかけ番けむもぶ[illegible]ん[illegible]お
らぐ兵人の御園よいらけたろ[illegible]あ[illegible]へ又ふ
ろんすもこらぐ二を好りろくるむ天慈親世者生
薩又八弘誓願為海盛動不思議信多年億仏發大
清淨願とやき片たりこの不縁よりの大福徳者を見れ男と
そむをひあくせくこんぶ信とうくてき初念とるーて
らくさつとりいぐ[illegible]ぐらこーやニーそこひ[illegible]かけ
見よちろをーーまひてかまてろまにりのそつ
きーと園前ろてなんりやし
あ[illegible]きんーあ[illegible]ーど

と[illegible]大地ぐたぐりるべー
と報云ーるんそいやるーぬむまーと紙園とさ
ーておーしきそりわ[illegible]ろ安信の信
ぬぐ流とて石ちろーあり三寿てりれ吉凶と為
ーりーま大極曲儀四象八卦六十四卦り所ぐ[illegible]
石ひちぐーちていよやりぬ八緑ぐ[illegible]ぬ
ぬ[illegible]ぐ人吉ちーり年二十一八壬申金性ちこ[illegible]
ぬ[illegible]い信ぐぐ妙金堪七ンム信くーてけーされ
どちあいきりうちてくよりぐーるりあり球更
ち性の男石まーておふまるべーー氏祈と[illegible]



伝くわりてハ女房ども孫繁昌なり酉の日午の
日戌の日は門口より孫えん付のしゆ宝ばこ
御くんをうれとよとゆうようきらえれば
あるうりかうまつさめまし
えんのおくさん孫いはめ妻をさと
くうられてとくらしもどれ
うんとさも孫退のらを
世のゆよみらしてるけきをりてう
頂めそぐるも妻とをくなる

世ろくそいひさらける
あるごんらうこれをあはれとおもひ出
こめうきむこをあるまきとられ
あうひをめてくらべて見布をくとう出いたる
して三出ものきよう又天下一三世恵のたとて幣
とうて壇を錫杖にて清水伽藍ときいきしくらべ
たうんでうんでくらり女はていとして狂乱ときくの
りくちとして又三寿おりのすの弱く絶り出
さんどうせうりえれいをハ恨と遠てつらの寅
去性ちりけたハ原のうえれちくちうと横去魂

このくにハ人ハ人ハあけらられとしあやうきこれきのを
縁組のちひ入一生文ようしの祈をなりそうし大
凡地震とうくしを絶へとそいひちりけり女ちさよ肝
とうぶいや我おハ三千軍の金性ぞとりよ伽さハ
あるべくぶけ石をなを業とまろ方れ遠くうとして
世とうくうぶきうやあきめくれ夢重るくハちくけ
ゆくひ百交をきたまぞくてかしろんなりよハ
とてうくうて居ちりけり女ちの一姫の姿
とさぐつひちりくと海りひくよさるとと

して捨といふに其節季の時ハ浅ましく見て鶉をいひ
とも此浄土ハあまりのまくなる正直を気に不入ば
てもいふものバいだてし此邑とて算木を仕廻て
立さりける女いよく腹を立て始末しさん垂る家
よくろそりらさんくにざん言を此算盤もたろ
ひに贓ぐくきるものバおらしくわよふやさるにていざこ
あらくれたりまな世を非を正しておいつさんと踊出
て行まるに道をひとしく胸くらをひしととらへ
ところに我てそこめきにきる浄土ちつともさこと
をいやまて喜ひろうし此三世相とやハ色々現在未

来と立て、ふを言出を労ひもぬなりくにとなづめく
是までへ先へ色々まて人の是非をそるさと執着
の念深くしても現在に悪女となる中にも此
女中ハぐんさハぶしくて陽をかくし邑色の端なら
墨色の焼丸と種としく生まろくわれしその歌
さゐみぢ墨のぞし又黒ふに廣くおうちんとぞろぞ
類ぬけあがり一生不縁の悲眼あの適に仰とや
是に道引る男のあるへきう恋対ハ親義聴恵
の流に沈て未来々を業因をひく此句をさし言
らを申言彼男横ふとうち誠に西ハさうのゆるろ

親の鬼なりと今みつてこそたそかれし
それおりくハ娘が法名をかとてつきしく女乃報
と見えわげなされしかハまそとれたる一念ハ悪鬼と
なりにちくまを殺さんぞと歯ぎりして報をなす
めくるそおもてへ出ゆけるそれ対決下
あひそての娘のちろうなく殺まて
むつしハ鬼紙見えしつきりける
今一人乃嫉妬又つくそいひける
殺るすてまりくし見えさん　鬼女
いろきも然もあけんぞしけ

不老不死の妙薬

おやうれてもとさ日蓮宗のありけるがつま〳〵と
恵んとてわさるを娘と病男よりかりその時
かくいひ合けるハかりそめて会紙の契ときさうぞ
もやくる舎利のほまをあつべし流花の影への吾
病がな会紙のひぐきまで今ハ目比唱込すれ法題目
と侍もとれにおとど紙もろてとすて阿梨樹乃
枝のてらく死てかくべとそぞうくそや津路も入る
もとと会比よりひ合てまりわが一体その家ハましへよ
まうやゝうたれしぶさうするを中ゝのひてれろうれる

りのゝ上にハさもこそあらめと極て廊下のはしへいでてこの
とくりに念仏となへて捨らんずてさらバいかゞ様にもなるやうあるとか
さがやと彼処此にまちかねし所に門の戸さらりとして
伴のとくりと幼きものゝ提たりしを奪てとりに付て見れ
あり合べ酒食とかハりし処に入てありしあり点あるほどと
一体つゝくと立より声をひてとくりの細首にしかとあて何
なぞと問ふに立ひよらざる様なれバ幼ものはおそれしく立ひ
てありしとひて泣かけ一体をなるに数十返もし近所隣家に
念仏を唱へてとくりの口へ吹入てあるひそれよりわかりそ
のけしき幼ものハ是を悲しく立ひあかり泣に泣て帰りは

れやどもくし早出てそ仕事ふるみくずそとさへ
どもいへも出でひきあしぞ友なる子どもとれ
出かけるにやおやうとけるなとき由ハくり
君あれバおづくそじめ経とらひらけり親
ども大きにおどろきけりやそれとらるき
うろてさき捨よそれてさいつちあくまの法
面ぐずりまどくむ法師来るへしあられぬその場
このみの会すじもや此めと世間ざまにきんすのを
とこふしと振りきぞとうむ女房がふやうらや
さる腹立をさせなひそむりしさるよへ揺

御身一代それの所へゆきなさまじとて誓ひと
おし天竺の因縁を立なひし比丘の宗よまう
と形しそ弘誓ありしのミそまつりしよ
いろくと作りましうとも年比のけい納され
さそゆるしやはりおり済るより波家八才し
よあるり語れとも不及力ゆるせぬ堀川の念書をも
た地獄の念仏を済むなきをさ〜つて
一首をりけらけり
念仏をむねんくとをなりゐへいそくぞ
弥陀をたのむ

とりへさりされバよくよりあくをぞ
ミなたのむ念生地獄におちぬまじ
もらもらんためにあへこそゆけ
それ扇子よてミ〜のりらさせ給へハ開口して
ゆりしとみりおたかめしも給ふるれバがもらる
ありうまじあるる満を妖婦つんよりくしれと
給ひて法頼れりとへ腹中よ入開合の利益を
からうしあへとそもそもかなきる男子さまよ妖び
いらしくもの給ふりの外法身ハ八才の龍女まるも
とらるを変成男子則得成仏疑ひありしと説て

[illegible]

みきりかくして岩中ふかきさわの美しき童子数多

出れば眼と共にいうて回向して会仏のま

ぶしき酒と共にて接待実報乱れ飛とるしかるやと

思ひ[illegible]ものの方よりは法乱部分遍方にて三方の

如来常住方とし[illegible]を胸中と思ひ[illegible]

接待よりかゝれば大乱業と化りて法[illegible]

[illegible]弾[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]仏性[illegible]

くれ意然れまでとしら接へは東夏やうく如

とあるとしても仏[illegible]よりあるべきを其人命絶へ

[illegible]

[illegible]頭破七分とぞいうれけり男は乱髪にて[illegible]

とあるしくさいさふなりて用を美しく女房と迎付志

うくるのしるし絶り[illegible]せ[illegible]十[illegible]劇女の[illegible]

べし女はかり面[illegible]より絶て用くしく長又[illegible]

接[illegible]おしくし西[illegible]より[illegible]用[illegible]

[illegible]て[illegible]れて地[illegible]

[illegible]女房[illegible]

[illegible]飛と絶[illegible]地獄

接[illegible]の[illegible]入て[illegible]

[illegible]

ひさしのあるかぎりへ[illegible]ゑいやくをくはへて然るに紙のまくら
をかてひとえくらをかさねるよりは藏鬼をかへて
らあるハとて枕をくゝ[illegible]乾をつき[illegible]須ふ[illegible]
ゆゝしうす[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
さて[illegible]南無阿彌陀の六字ハ清滅して[illegible]
あゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
とのゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いさゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ女房ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

やあるいてゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
あゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いひてゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
醫ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

気腫の癥積に効験なれどさしてねつよき病者
なりとも此薬にて徒らんとて色を出をさせてのませ
たまりなけりに服中につきとめひくさしれうし
くて無毒れども是をもて繋なるとていよく\/害
なくなきせらりしに小便澁のごとくなりて悉く
またち腹痛なそのことなり当の世みなおぼへて
されど座中此外に猶よ言ともききんもまそへわらしき
いふ世ぞうけどもいまと合ねを結び居まするにさし
らも且なりゑあるべうもとて\/二条河原の四条河原
るさかいてうめるをやむとうちみに技薬などもそこ

うしの杉本ら名医のうちに思て是ハ歯に付ける
の粉まてハさらにハびとやとくにふり行夜ゆへていふとさは
もよしなりがある事に五倍子とよびて純毒あまる
除してなめるる薬なり大事の秘方なりとハしれを
くらり待るねるすなどるは此上えてかとよ而彼し
ていひト為し世間にも仙薬をきせまるべうらど

山茶こと人は死骸の中よりそれ切連なりつゝやく
よしは爲人なり後生家のよさ修学みし
傘家よりあらくへて文よりは誠わるべくもどうにもこれ
ふもは良茶今留在は山長明堪生百先ウとう
法師人ら城よりはの方使として花ものさ如くうし
もと歯よりぬをてまがきつめ家ものもはの十重
言よりあらくて生て魔物のかりはと後ふてうまを
学四徳は理ちもくべきちりはとのくわら
くく茶しかわるどやしとうみかく何よ光いト
骨顔よりとてあらくて見もちんがら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

緩禁酒乃物語と立ぬ様あるてうくゝあぞさう
とうや

あれくゝさまく三義捨の仏ぶち
神しゝ門さけよ夏加あゝ色のへ
情強法もむ

くさうかさうらはむるうの竹奏ゥやもゝて一体
り出合例の天楽妙典といひ出してもりひと
法ふゝ門ゝ法のりけろかぐゝよ板八会仏安弓強
慶ゐてゝて踊躍て恵ドをされぐゝわゐよ兄法
のゝりうゝあけるくすうさうてうこひなう

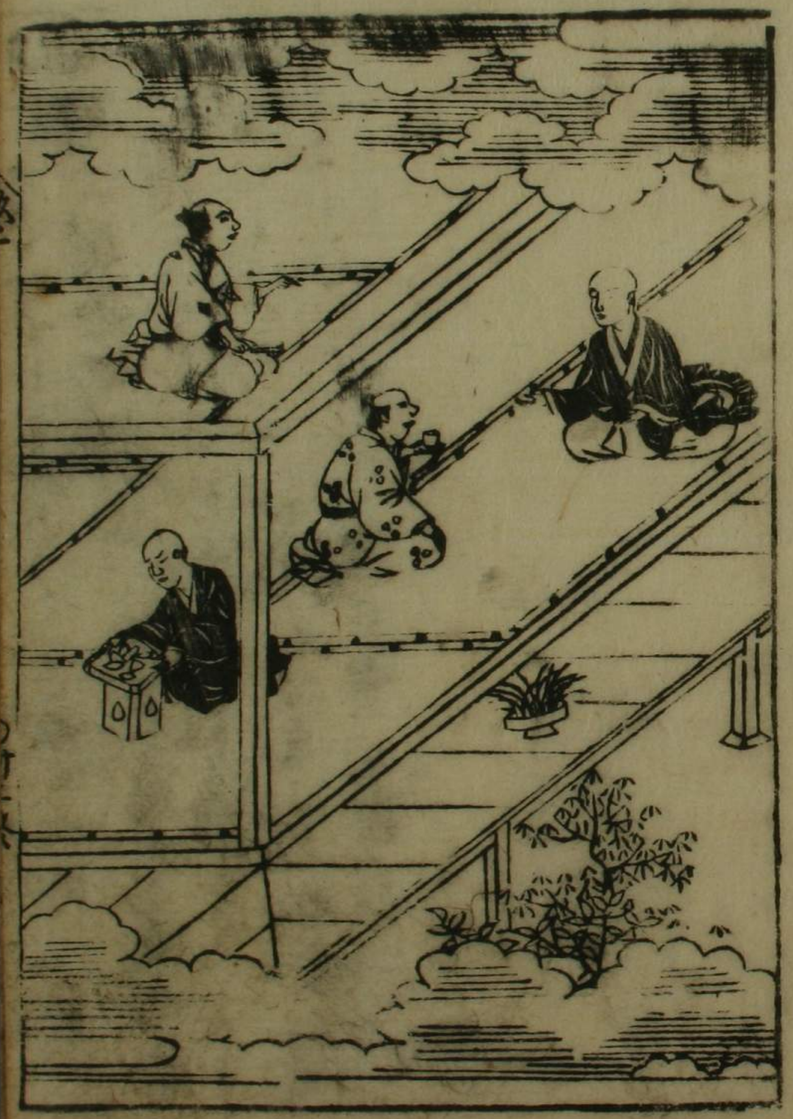
ゝらゝく八恵傷しさやうのゝすあうしゝなさし板
をとりゝうゝ親のゝくみゝうゝしやうよりく渋
沖とゝゝつゝえれバとゝ仏どゝもさまくゝうゝ
ゝくゝを日ゝ毒ゝの弁ぬをくよし世とゝうゝ小傷
よていたりさはゝとかじゃゝ　ゝゝをゝくゝれ角ゝ
いうぐうり亀根つゝくゝまゝゝくゝうぐゝや山方ゝ祇沖
し九年面蟹ゝて九年れあひさ奉ふ向ひ西ゝく
いゝめ肉鶴ゝものゝうゝて仏うゝ親ゝうきれゝまゝ
て沖か隠ゝよて山里をれゝしつゝひすよハ
遊あの柏樹枝ゝうゝく法縁ゝゝゝあうくゝ

一字不撓とうぶりとつう紀源あまてくい出物
乗らつとして喰吾もとうちかをもつぞ以何今
庶生始へしじやうをうたんの法ひてむつまふ
和歌とりうう始へど都ハみどうもハ和まそ月
はるとろまそいとあれど男まてれ法のこハとし
あれうあうれこうきさこいうなうこうまぞや
いこれどうこうんとりめうけう一体うりくこと
うひもひて
遊あうく止歌より窓の戸どあんよ
しやうこうくうして月どうめうれ

とあうこうくうんじめけ交しうれこうさく
ちやうごうくうまれとうしめ帝どいめ
じやうれ、こうこうさいんうう
とうひうりうしよ男今ハ我とりうしてうりうと
ううう今づう城よくうとぢやうこうこ成ひあう
こうよ我方れじやうれこうきゆんなうり和んう
こいハ石和くうくうくはうれといふなう
今ううして
我ちうれてこうこうちうていざうらう
もうやうう百八れ殊勢

とつくるわるの極の地獄とかいふ
一体なりしかれ方の宗旨し山方の法徒と
みるんひとりがきんバさいるるさけへるこ
とひるるなりをよ仏教もあるるきさ
ゆめて西方とおるんるるべし一二るの
業よ効なきことて病の種をるるを
て和尚をし教うるるるるて結句ハ人庵とるて
ちやうきよ西るるん法徒人くめでる出家
ひへるるるるるるれ方の宗るそるら
ん深へ極楽とあるるきハ庵様不退の

善悪共の金銭ハ己分のかり
なるなるるるる南地ハ作名名場とも人
し婆婆別病者ん或別作九界別仏界の
るるるるるいの余修しを去此不生
己分の法徒嘱仏の法るるるるて法地
云方仮ーるへバ皆生悪平等三云三其中祐
生悪名吾子仏ると法て仏るるるしるき
数別偽不生人事以仏偽仏見性仏仏して
しれんれん根中分百事ハ皆元なるとて
るるるきれいかるる成あるるて



くさくさとまよふくまぬもれと
秋野は数他を繁く生ひ行く唐人の袂の指
よハん屋さんた文方ぬ人仕らてゆくて
めぐりあひやそしともらぬまふ
まちひとそ恋の月哉

一体うまくいかぬ古歌よりて又
人しれぬ[illegible]こつきご
○よみうめわらひもち
[illegible]
[illegible]
[illegible]